第 47 回埼玉県医学検査学会を終えて

第 47 回埼玉県医学検査学会
学会長 来住野 修

令和元年 12 月 1 日(日)大宮ソニックシティにて第 47 回埼玉県医学検査学会を開催致しました。当日は寒い日でしたが一般市民を含め 1,264 名の皆様に参加していただき、盛会裏に終えることができました。心より御礼申し上げます。

本学会のテーマは、新年号、令和元年ということから新たに始まる元号の如く飛び立ち、もう一度基本に戻り、そこからより高みへ躍進しようではないかという意味で「飛翔」、そしてサブテーマは『進化』から『昇華』へとしました。

学会準備は昨年 11 月に私を含めた 19 名の実行委員が参集して始まりました。委員は 27 歳～62 歳、平均 39 歳と若い年齢層の集まりで、経験者が少ないことから却って斬新な意見が多数出ました。既存の慣習に捉われずに新しいことにもチャレンジする方針で各企画が動き始めました。特に学生や技師の新人からベテランまでが参加しやすい企画はないだろうかと試行錯誤しました。また学会受付の混雑解消のため、思い切って受付を地下に移してみました。参加する皆様が例年同様 4 階に向かわないように、案内係も配置いたしました。迷わず受付できましたでしょうか？

学生・新人向けには各研究班のご協力のもと教育講演を多数開催しました。RCPC では午前には技師会青年部のご協力のもと初心者向けの進化編、午後は埼玉医科大学病院総合診療内科准教授の小林威仁先生を中心にベテラン技師も参加しやすい内容の昇華編を企画し、各自のレベルに合わせて検査データの読み方を学べるようにしました。また本学会が実り多い一日となるように、午後の時間も有効に使い、同分野での一般演題と教育講演などの時間重複を極力少なくし、より多くの企画に参加可能にしたいと考えたり、初めてのスイーツセミナーを開催しました。日頃のお悩み相談として、会員向けには相談コーナーを開設し、学生には学生向けランチョンセミナー「今日でスッキリ！学生のためのお悩み相談室」を企画しました。

もう一つ初企画として、埼玉県診療放射線技師会とのコラボレーション企画『肝腫瘍における各モダリティのアプローチ法（肝癌を中心に）』を開催しました。超音波や MRI 検査は臨床検査技師と診療放射線技師の業務範囲であり、検査データを提出する者として今後も尚一層お互いに手を取り合い検査業務に当たらなければならないと考えております。

学生演題では、私が養成校の教員であることもあり、今まで演題発表のなかった養成校も参加しやすいようにと、例年の一般演題形式に加えショートプレゼンテーション形式を設けて、県内すべての養成校にお声掛けしました。新たな取り組みに各校の先生方も戸惑われたことと思いますが、お陰様で新形式 2 演題を含む 21 演題の発表がありました。今後、学生たちが検査技師になった折にこの学会発表が何かしらお役に立てば幸いです。

市民公開講演は埼玉医科大学病院検査医学教授で中央検査部部長の前田卓哉先生をお招きし、年末年始に起き易い感染症に対して『冬の健康管理；節約・時短レシピ「それ、感染しませんか？」』をご講演いただき、合わせて感染予防に必須の手洗い講座を開講しました。

最後になりますが、神山会長をはじめ技師会理事、諸先輩の皆様、座長や司会の皆様、各研究班、実務委員、賛助会員各社、参加された会員、養成校の先生方、学生の皆様のお陰で無事学会を開催し終えることができました。皆様のご支援ご協力に対して心から感謝申し上げます。実行委員の皆様、1年間本当にご苦勞様でした。皆様と一緒に学会を開催できたことは私の記憶にしっかりと残りました。皆様の記憶にも残っていることと思います。本当にありがとうございました。